

神樹の会会報

No. 5 本部事務所：神戸市灘区備後町3丁目2番22号
 昭和59年7月18日 六甲作業所内 TEL(078)821-1533

(事業所)

六甲作業所及び東部生活訓練所
 〒657 神戸市灘区備後町3丁目2番22号 ☎821-1533
 垂水作業所及び西部生活訓練所
 〒655 神戸市垂水区星陵台4丁目4番45号 ☎782-9675
 福祉の店“いたやど”
 〒654 神戸市須磨区大黒町2丁目2-12 ☎733-2477

授産施設建設へGO!!

— 昭和59年度 神樹の会 総会報告 —

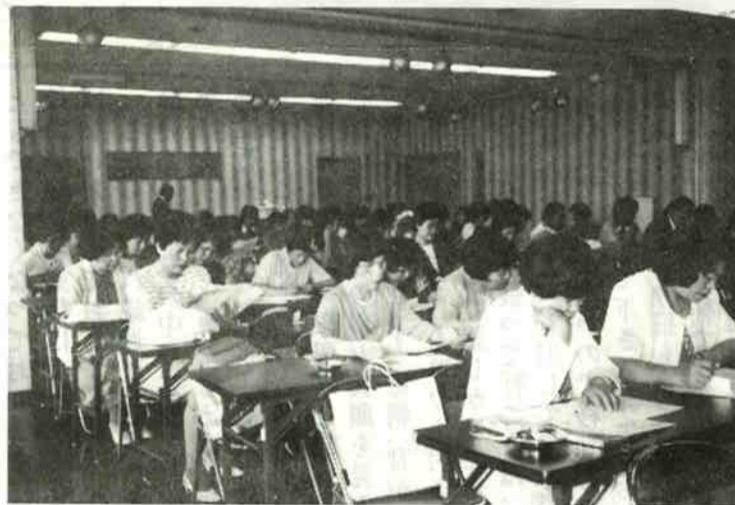
昭和五九年度 神樹の会の総会は五月二十七日 午後一時より神戸港振興協会に於いて行なわれました。昭和五八年度の事業報告並びに決算報告後 旧役員退任挨拶があり、来賓として民生局心身障害福祉室・育成課長の武衛俊雄氏及びみどり会橋本禎穂会長の挨拶があり、続いて新役員の挨拶 昭和五九年度事業計画、並びに予算審議後、議長より懸案の重度身体障害者授産施設設立について提案があり全会一致にて採択されました。

今年度 本会新役員決まる!

- 顧問 長谷川隼彦(友生)・岡実(垂水) 校長 吉田耕二・望月秀雄
 相談役 牧野一夫
 副会長 大橋敬子、宮脇テル子、堀川静子、谷良子
 会計 森山チエ子、奥村幸子、杉本良子、三好タマミ
 高田標子
 会計監査 室之園里子、吉岡益慧、中野柊子
 書記 大川民子、本多小夜子
 幹事 牛村和子、三宅タツ子、堀川房子、永瀬まさあ
 住友佐和子、正木恵美子、山田和子、小谷由子
 松村千代子、高田美代子、藤本敏子、岡本照子
 村上紀美栄、藤岡佐和子、金原和子、福田安子
 高木つや子、岸本よしの、立岩幸子、衣笠里美
 中島英子
 友生 甫立智孝(教頭)
 池田恵子、北脇貞子、河田伶子、大島和代
 庄司幸子(教頭)
 垂水 北川勝、肥塚一代、黒田素美子、前川登美子
 六甲作業所 所長 谷良子・垂水作業所 所長 藤田愛子
 東部生活訓練部 金沢葉子、中島義彦
 重度身体障害者生活指導事業所 運営委員 鮫島ミツエ(藤田愛子、宮脇テル子)
 福祉の店 いたやど 高木恵子、中田美智子

重度身体障害者授産施設 設立へ

現在市内には療護施設として、さぎんか療護園(市立)と神戸愛生園(法人立)の二園はあるが重度身体障害者を対象とする授産施設がないので、神樹の会と父母の会が協力して新しい法人を作り施設を設置する意志があるならば全面的に協力しようということにかねてより役員会、友生・垂水



写真は活発な討論の行われた総会

ともに生きる

私には 私自身が一ばん大切
 あなたには あなた自身が一番大切
 それは身障が であろうとなかろうと同じ
 親兄弟であろうと 同じです
 世の中の人
 私に振り向いてくれなくても当然
 世の中の人
 あなたに手を貸してくれなくても当然
 それなのに
 もし 振り向いてくれたら
 もし 手を貸してくれたら
 それはもう 大変なことです
 ありがたいことなんです
 私には 私自身が一ばん大切
 あなたには あなた自身が一ばん大切
 それを知ったうえで ご一緒に
 ゆたかに 生きていきましょう...



4. 建設費 概算 (50人規模として)

予 算	国基準(A)		(日自動振)補助(B)	
	国庫補助による建設		民間補助による建設	
国・市補助	A×1.1×3/4 223,343千円		A×1.1×1/4 74,447千円	
日・自動・振	-		B×3/4 218,930	
法人負担	100,657		30,623	
合 計	324,000円			

5. 措置費 (58年単価で計算)

事務費	99,000×50	4,950千円
食費	23,800×50	1,190
日常生活費	14,900×50	745
合 計	137,700×50	6,885

- P.T.A.の会合で、その案について検討を重ねていたが、実施の内容にはなお確認せねばならない点が残るが、その趣旨には全面的に賛成することになった。なお、父母の会に於いても六月十日の総会において設立を推進することに決定した。神樹の会設立当初より会員一同が念願としていた施設設立の方向が確認されたのでより一層会の活動を活発にして目的達成に全力を尽くしたいものである。なお、重度身体障害者授産施設(収容)概要は以下の通りです。
- 1 施設の目的
一般企業に雇用されることが困難な重度の身体障害者を対象に必要な訓練を行ない、かつ職業を与え、自活させることを目的とする施設
 - 2 職員配置基準 (五〇名定員の場合) (一)内人数 施設長(一)・事務員(一)・指導員(一)・医師(一)・嘱託も可・看護婦(一)・栄養士(一)・寮母(四)・介助員(一)・調理員等 (四)のうち一人は非常勤)
 - 3 建物の構造及び面積
構造は平家建を原則とし、耐火構造とする
面積は一人当たり 三四、二平方メートル以上
三四、二×五〇〇一、七二〇平方メートル以上

重度身体障害者生活指導事業

1 重度身体障害者生活指導事業の設立

昨年四月 神樹の会の絶大な援助を受けて西部生活訓練部として発足。昨年度垂水養護学校卒業生八名、友生養護学校卒業生一名、垂水作業所より(週二回)八名の参加者によって始められました。昨年度一年間の活動が認められて、今年度は神戸市の指導と助成を受けて神樹の会、父母の会合同の運営委員会によって新しく設立発足の運びに至った。

2 活動場所及び日時

重障児 西部いこいの家
毎週(月・金) 十時～一五時三〇分

3 通所方法

リフト付福祉バス「おおぞら号」を利用。おおぞら号が使えないときは垂水作業所のリフト車を借用(ボランティア運転手二名)

4 参加人数

登録者(重度身体障害者) 一五名
垂水作業所より 一〇名

5 指導員

常勤指導員 二名(男一名・女子一名)
ボランティア指導員 三名

6 活動内容

A 生活指導
ア 身辺処理能力を高める。イ 障害者が互いに助け合い励まし合って楽しく集団生活の中で社会性や仲間意識を育てる。

B 機能訓練

趣味あるいはゲーム、見学などを通して交流の場をもつ

C 作業所への実習(障害に応じて)

年ごとに重度重複の障害者のふえていく中で、このような生活指導事業の設立は養護学校卒業後の彼等に大きな喜びとお互いに励まし合いの場となった。

生活指導事業に参加して
カレンダーに印をつけて・・・

僕は垂水養護学校高等部を卒業して、今年四月から週二回出席しています。はじめは作業もしたいなあーと思いましたが、続けられるかどうか心配でしたのでゲーム・散歩・訓練を頑張つてやっています。いかな日は家でテレビばかり見えています。訓練部に行く日はカレンダーに印を付けて楽しみにしています。だからいく日の朝は早く起きて「お母さん、さあ行こう。」と言つてはりきつて家を出ます。僕の希望としては、毎日生活訓練部に行けたらいいのになーと思っています。(中島康宏)

早く大勢で合奏したいなあー

私は今年の四月三日から週一回参加しています。音楽、図工、読書等やりたいことはたくさんあります。このごろはキーボードに取り組んでいます。今のところキラキラ星と七夕祭りの二曲はうまく弾けるよう



ご支援下さった神戸市当局をはじめ神戸市会、父母の会、神樹の会、友生・垂水養護学校PTAの皆様深く感謝を申し上げますとともに、名実共に内容の充実と発展のため一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。(鮫島記)

になりました。いろいろな曲に挑戦して、みんなと合奏できたらどんなに楽しいことでしょう。家に居るときは今頃いこいの家では何をしているのかな?と考えたりして一人家に居るのがとても淋しい気持ちです。このごろ体の調子が大分良くなったので「七月からは週二回出席したい。」とお母さんと話し合っています。(山本亜佐子)

今日もいききたいなあー

神樹の会西部生活訓練部が昨年四月に発足されましたが、そのまま喜んではおれない思いました。

といますのは、親は年々体力的に無理が続かず、歩けないわが子の体重は五〇キロを超え、私一人ではこどもをどうすることもできなくなつております。垂水養護学校高等部を卒業後はやむなく在宅にする他はないと諦めておりました。

しかし、一八歳過ぎたこどもが障害者とはいえ毎日家の中でジツとして過ごせる筈はありません。また考え直して生活指導部に行かせていただくことになりました。

とてもこどもについて行けないと諦めていました私。もはや限界だと思いつめていましたが、こどもの喜ぶ笑顔を見ると不思議に力が湧いてきます。毎朝、目が覚めるとジェスチャーで「今日もリフト付きのバスで行こうね。」と笑顔で話しかけて来ますので「さうよ。今日も頑張つて行こうね。」と答える

とキヤーと大声を出して喜ぶ姿に、又励まされます。体が重いので移動するたびに笑顔で手をかして下さる先生やお母さんたちに「有り難う。今日も来て良かったね」と感謝の気持ちで一杯です。今は一日おきに通つておりますが家にいる日は淋しそうに外を眺めながら何か考え込んでいるその姿を見るたびに、私はいつまで続けられるか不安もあります。体の続く限り頑張りたいと思いを新たにしております。私一人の力は弱くくじけやすいものですが、みんなの力で励ましあつて一日一日を障害のこともと共に生きることの幸せを心から感謝しております。(通所生の母 河野ふみこ)

自立を促す生活指導事業をめざして

昨年より重度身体障害者の方々の指導をさせていたただくようになり、早いもので一年余り立ちました。今年度も六名の新規入所者を迎え、大変賑やかになりました。人数が増えれば増えるほど、多種の問題があります。昨年比に比べ教材なども徐々ではあります。又、指導者の方も一名新たにきていただき共に指導に当たつております。しかし、指導に関してはまだまだ力不足の面があり、到底満足はいくものではないかと心配しております。ボランティアの先生方のご協力によって補つたり、研修も深めております。

生徒たちももう成年です。これから先のこの人たちの生きていく上での目標をしっかりと上げてあげることが必要だと思ひます。そのためにも指導員、生徒、父兄の協力と頑張りが必要だと考えております。これからの一層のご支援をお願い申し上げます。(指導員 白阪利昭)

力をよせあい生きる道を求めて

生活指導部が発足して一年余り。今年度は友生養護学校連池分教室時代からの縁の深い生徒たちも加わり賑やかになりました。時々学校の延長のような思いがするのですが、もうどの子も青年の顔なのです。

この子たちに社会とのつながりのない生活をさせたくない、健常者と共に生きる道って何だろう・・・幾日も考えあぐねていた時、ふと二人三脚を思い出しました。一人では何もできない、でも幾人かが力をよせあえば、一人の力が出せるはず。もちろん重度者には介助が必要です。

今一つの試みとして和紙の細工物を共同で作っています。もつと工夫して、商品としての値打ちができれば、これを通して重度者も社会参加が可能なのです。軽度の人々が重度の人を助け、一つの輪がよい仕事を生み出していったら・・・こんな夢を確かなものにしたと考えています。

(ボランティア指導員 安田英子)